

山梨県テニス協会創立50周年に寄せて



関東テニス協会

参 与 中 川 暢 行

社会人になりたての、昭和41年だったと思いますが、山梨県テニス協会の練習会に参加することになり、これが山梨県とお付き合いの始まりで、あれから50年になりました。

当日はお世話役の土屋金藏先生（現在会長）の出迎えを頂き、会場の機山工業高校（現在甲府城西高校）へ、小さな川を渡った記憶があります。

生徒さんは、軟式テニス（現在ソフトテニス）王国の山梨ですから、ソフトテニスの経験はあるようでしたが、硬式テニスの経験はほとんどないようでした。

練習が終わり宿に案内されましたが、湯村の天皇陛下もお泊りになりました、常盤ホテルの10畳次の間付の12畳でびっくりし、どの辺に寝ればよいのか心配しました。

夕食は山梨県協会の主だった役員の方々とご一緒させて頂きましたが、見たことのないご馳走に、何から食べたらよいのか、何を話したらよいのか、戸惑うばかりでした。

冗談ですが、今なら芸者さんとは、言いたくなるようなお部屋とお料理でした。

土屋先生（土屋会長と言うべきですが、先生の方が馴染みでありますので申し訳ありません）が異動されてお作りになった、各高校のテニス部、機山、甲府南、日川、石和（現笛吹）高校等の練習会と県の強化合宿に数多く参加させて頂きました。

宿は土屋先生のお宅で、お庭の離れにも泊めて頂きましたが、強化合宿は、温泉旅館で豪勢で疲れも癒され本当に楽しく実績が上がる合宿だったと思います。

昭和43年の合宿には、立教大学の石川忠幸主将と2人で参加致しました。

石川主将は、練習が終わり風呂、食事が終わると、その頃は携帯電話がありませんので、10円玉をいっぱい持ち、旅館の外の公衆電話で毎日電話をしているようでした。

お付き合いをしている女性なのか、これからのお付き合いをお願いしているのかわかりませんでした。非常に楽しそうでした。

この数年後お二人は結婚され、お生まれになったのが、日本を代表するテニス選手の沢松奈生子さんということになりました。

もし、山梨合宿がなければ、電話をする機会をのがしたかもしれません。

山梨県テニス強化合宿お手柄、お手柄ということになりませんか。

先日、このエピソードを書くについて、石川忠幸氏（現在沢松忠幸氏）にご連絡したところ、あの合宿は、自分にとって指導の原点であり、娘（沢松奈生子さん）の指導に非常に参考になったとの事で、お礼と50周年のお祝いを頂きました。

50周年のお祝いと、今後のご活躍を祈念し、思い出の一つにさせて頂きます。